

自己評価および外部評価結果(北)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のケアの提供は、会議などで話し合いをし統一を図り、理念に基づいて行っている。新入社員には、新人研修にて取り入れている	理念である「あきらめから希望へ」「笑顔とチームワーク」「限りなきプラス思考」を職員間で共有し、日々の業務の中で伝えている。また、職員は目標を持ち、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	洗濯干しや散歩などで、地域の方と挨拶を交わしたり、行事の時はボランティアで、歌や踊りなどを楽しんだり、近隣の喫茶店に行き、地域との交流を図っている	自治体に加入し、地域の一員として行事への参加や活動を行なうと共に、中学生の職場体験やボランティアの受け入れをすることで、日頃から利用者さんが地域と溶け込むような支援が提供されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験では、高齢者とのコミュニケーションや介護について学んでもらったり、運営推進会議では、地域の方に認知症の理解や勉強会などを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回運営会議を行い、利用者のご家族や地域の方、行政の方を迎え、サービスの取り組みや報告・意見交換を行っている	2ヶ月に1回行う運営推進会議では、地域の方々や包括支援センターの参加により、活発な意見交換が出来るよう議題内容を工夫し、また、参加しやすいような雰囲気作りに努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターの方が参加され、福祉事務所・福祉センターの協力を得ながら、意見をいただき連携を深めている	福祉事務所とは、日頃から連携を取れるように努力している。また、運営に関しては、市町村と連絡を取り合いながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員により、月1回会議を開き現状の見直しや、勉強会を行い職員に理解を図っている	身体拘束委員会を設置し、月1回、会議を開いて「身体拘束をしないケア」の実施に取り組まれている。また、セラピードッグを利用して、利用者さんの精神の緩和に努められている。	転倒防止の為に安全ベルトを利用されている方に対して、配慮の工夫(ひざ掛け等を利用してプライバシーの保護)を検討して頂きたいと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開き、高齢者虐待防止に取り組んでいる。現場でのストレスや、悩みを感じている方はいないか、個別的に声をかけるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ、成年後見が必要な方がおらず、他の職員には理解できていないように思われる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を充分に取り説明を行い、特に利用料金や起こりうるリスク、重度化についての対応方針、医療連携の実施など詳しく説明し同意を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を用意しているが、意見がなかなか集まらず、運営推進会議にて要望や意見を頂いている。面会時に、何んでも言ってもらえるような雰囲気づくりを心がけている	ご家族の来訪時や電話連絡で、直接ご家族から意見を伺うようにしている。その中で出た提案や希望をケアサービスの質向上に行かせるような話し合いの場が持たれている。また、運営に反映するようスタッフは努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ユニット会議を行い、意見を聞くようにしている	月1回の定例会議以外にも随時、職員の意見や提案を聞き、良い意見は積極的に運営に取り入れるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リーダー会議を行い職員の業務や悩みを把握するように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員については、最初の1カ月はマンツーマンで体制をとり指導を行い、1日の出来事をレポートに書いてもらいコメントしている。また外部研修に参加し、ユニット会議にて報告をし、理解するようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福祉センター等での勉強会に参加し交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、事前面接で生活状況を把握し、ご本人の困っていることや、求めている事はないか知るようにし、信頼関係を築くように努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や思いを理解し、ゆっくりと話を聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と、ご家族の思いを聞き入れ、必要なサービスが提供できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方は人生の先輩であるという考えを職員が共用しており、普段から入居者の方の声に耳を傾け、いろいろな事を教えてもらいながら、信頼関係を築くようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご本人の日頃の様子を伝えるようにし遠方の方には電話や手紙で伝え、手紙が書ける方には直接、書いていただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に行ったり、お盆やお彼岸にはお墓参りを続けている入居者の方がおり一人ひとりの生活習慣を尊重している	昔馴染みの近所の人の訪問や、家族協力の元での外出支援などを行い、一人一人の生活を大切に支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、お手伝いが好きな方は、入居者同士が仲良く一緒に出来るように、席の配置などに気をつけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの支援内容・注意点などの情報提供を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と関わり合いを持ち、その時の様子を記録に残し職員同士、把握をしている。意思疎通が難しい方は、ご家族より話しを聞くようにしている	寄添いながら話しを聞くことで、利用者一人ひとりの思いを汲み取り、不明点においては、家族から情報を伺いながら、介護計画の作成に活かすように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症という病気は、ケアするにあたって、入居者個人の生活歴を知る事が重要だという事に理解をもらい、事前面接で聞けなかった事は、日々の生活の中で聞き出していけるように努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活や行動を理解していき、その人らしく生活していけるよう、把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には、日々の生活の中で希望や意見を聞き入れ、職員同士で話し合い、アセスメント・モニタリング・カンファレンスを行い、介護計画を作成している	日々の生活の中での「気付き」を大切にし、利用者本人がより良く暮らせるためにスタッフ間で意見交換している。その中から本人に取って最良であるケアサービスが行なわれるように、計画や見直しが行なわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別のファイルを使用し食事・水分量・排泄など体調の変化がないか把握できるようにし、状態の変化や様子を記入し、介護計画に沿って記録できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	誕生日会や行事では地域のボランティアの方が来てくださったり、月1回の訪問理美容サービスやボランティアによるお化粧品など、地域の方に協力を得ている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医や、かかりつけ医での適切な医療が受けられるようにしている。かかりつけ医についてはご家族同行で受診して頂いている	主治医と看護師の連携により、適切な医療が受けられるよう支援体制が整えられている。また、入院受け入れの病院もあり、安心して医療が受けられる仕組みになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、入居者の健康管理を行っている。異変がみられた時は、随時報告し、医師とも連絡・相談を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には添書にて、日々の様子、体調の変化を病院に報告、早い時期にお見舞いを行い、入院中の様子を把握し、速やかに退院できるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応できるケアについて説明し、ご本人やご家族の意向を聞き、医師・職員が連携し納得したケアが受けられるよう、随時確認しながら取り組んでいる	職員全員に対して、終末期ケアの研修を行い、本人、ご家族の意向に添えられる様、看取りの体制も整えられている。また、家族と共に、終末期を安心して送れるような環境も整えており、事業所全体で支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常時、見える所に、対応方法を掲示し、意識の向上を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間の火災を想定し、年2回入居者と共に非難訓練を行っている。運営推進会議にて、地域の方にも協力が得られるようお願いをしている	定期的な避難訓練の実施において、速やかに避難できるよう、全職員が避難方法を身につけている。	施設の避難訓練において、地域住民への参加の呼びかけにより、夜間時も速やかに避難できる体制が整えられることを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の性格等を理解し、個人の考え、生き方を尊重しながら援助するように、心がけている	日々のケアでのプライバシーの保護はもとより、退職者に対する利用者さんの個人情報の保護も徹底されている。また、目上(利用者さん)の人を敬う姿勢で、ケアサービスに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方の気持ちを大切に、出来るだけ希望に添えるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員から強要するのではなく、個人のペースに合わせて、ご本人の希望を聞きながら支援するように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日1回は鏡の前に立ち、ご自身で出来る方にはしていただき、出来にくい所はお手伝いをして、また、訪問散髪やメイクの日には、オシャレを楽しんでいただく		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員は同じテーブルにつき会話をしながら食事をしている。また盛り付けや配膳を一緒に行っている	天気の良い日は、テラスでおやつ時間を過ごすことで、食欲が沸くような雰囲気作りを心がけている。また、出来るだけ旬の食材を取り入れ、彩りなどにも気を配り、利用者との談話を交えながら、食事の時間が楽しくなるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量を把握し、少ない時にはこまめに食べやすい物を用意したりしている。また脱水にならないように、こまめに水分補給を行うようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行い、清潔さや誤嚥性の肺炎にならないように気をつけている。また、歯科衛生士による口腔ケアを行い清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェックを行い、時間やトイレに行く前の動作やしぐさなどの観察を行い、声かけ・誘導している。また必要に応じて、紙パンツ・パットを時間帯に応じて使用している。	排泄時の羞恥心を配慮しながら、自立に向けての支援が行なわれている。(かぶれを防ぐ為、可能な限り、布パンツを使用。)	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のパターンを記録し、起床時には、冷たい飲み物を飲んでもらい十分な水分補給を行なっている。また腸の働きをよくするため、テレビ体操では腹筋を使った体操などを行う		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者、個人のペースで入浴できるよう順番に配慮している。また、その方に合った用具(イス)を用意している	入浴拒否の利用者さんに対しても、心身が不安にならないような誘導により、2日に1回は入浴支援をしている。また、本人の能力に合わせた椅子を利用することで、安全に入浴支援が行なわれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活のリズムをつけるようにしている。夕食後は、ご本人の意思にまかせ自由に過ごせるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の名前・用法・目的・用量がわかるファイルを職員がいつでも見られるようにしている。また、毎食の服薬はチェックシートで服薬できているか確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を生活歴・会話から探り、その人に合った楽しみやお手伝いを見つけ出し、感謝の言葉を伝えながら、押し付ける事なく場の提供を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や喫茶店への外出、家族にも連絡をとったり、外出の依頼を行っている	散歩に出かけて地域の人達との会話したり、近隣へお茶に出かけたり、自宅で過ごしている時と変わらないような支援に努めている。また、地域行事(ウォークラリー)にも参加し、地域との交流を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある入居者には、家族より少額のお金を渡してもらっている。家族よりお金を預かり、事業所が管理している方も、外出時にはご自分で支払っていただけるように、お金の手渡しを行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月1回は家族に写真と一緒に手紙を送れるよう機会を設けている。また、電話は居室にてゆっくり話して頂いたり、手紙はご本人に直接、手渡すようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの掲示物は入居者が共同で作ったもの、写真等、興味の出るものを選び、季節に合わせた飾りつけを心掛けている	室内に天窗を設け、出来るだけ日光を取り入れるような工夫が施されている。また、窓から覗く四季折々の草花や、テラスにある花々の癒しの空間が利用者さんのやすらぎの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで使うイスには、自分の座布団等を使用し一人のペースの確保をしている。予備のイスも用意し座りたい場所も選べるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、ご本人や家族の意思を尊重し、使い慣れた物やご家族との写真などを置き、心地良さに配慮している	居室には、昔から使い慣れた家具やお気に入りの置物等を配置して、家庭の延長になるように落ち着いて過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者をよく観察し、職員同士話し合いながら、環境整備に努めている		